第２期蔵王町まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和３年２月

（令和６年４月１日一部改訂）

蔵　王　町

目　次

第１章　基本的考え方 ……1
１．第２期総合戦略の策定主旨……1
２．第２期総合戦略の位置づけと蔵王町長期総合計画との関係……3
３．対象期間 ……3
第２章　基本目標と施策の方向 ……4
１．目標設定 ……4
２．基本目標 ……5
３．施策の基本的方向と主な施策、数値目標 ……6
基本目標１：稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働ける地域を創出する……6
1. 数値目標 ……6
2. 基本的方向 ……6
3. 具体的施策……7
4. 重要業績評価指標……8
基本目標２：蔵王町との新しいつながりを築き、蔵王町への新しい人の流れをつくる…9
1. 数値目標 ……9
2. 基本的方向 ……9
3. 具体的施策……10
4. 重要業績評価指標……11
基本目標３：結婚・出産・子育ての希望をかなえる……12
1. 数値目標 ……12
2. 基本的方向 ……12
3. 具体的施策……13
4. 重要業績評価指標……14
基本目標４：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる……15
1. 数値目標 ……15
2. 基本的方向 ……15
3. 具体的施策……16
4. 重要業績評価指標……17
第３章　事業の推進体制 ……18

第1章　基本的考え方

１．第２期総合戦略の策定主旨

国では2014 年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「第１期　まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し人口減少への歯止めや東京圏への過度な人口集中の是正に取り組んできましたが、計画策定後も国内の人口減少は続いており少子高齢化が進行しています。「継続は力なり」という姿勢を基本に、国では2020年度を初年度とする「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」において今後の５ヵ年の目標や施策の方向性等を定め、新たな取組みをスタートさせました。

本町においても、「蔵王町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に策定し、令和２年度までの６年間、仕事づくりや移住定住、子育て環境の向上等に取り組んできました。しかし、地方創生は、中長期の人口の推移に着目しながら次の世代やその次の世代を見据えて、人口減少に歯止めをかけ活力ある地域社会を構築していくための息の長い施策です。そのため、引き続き切れ目のない取組みが必要となることから、蔵王町の６年間の取組みの検証とともに、国の第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で掲げられた新たな目標や施策の方針を踏まえて、第１期総合戦略の取組みのなかで育まれた「地方創生」の芽をより確かなものとし、地域の躍動を高めていくため、「第２期蔵王町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第２期総合戦略」という。）を策定しました。

■「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る国の方針

国の第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和２（2020）年度～令和６（2024）年度）において示された目指すべき将来は、以下のとおりです。本町においても、地方創生の充実・強化に向け、切れ目のない取組みを進めることが求められるため、これらの方向性を勘案し、より戦略的な取組みを進めていくこととします。

【地方創生の目指すべき将来】

「将来にわたって『活力ある地域社会』の実現」と「『東京圏への一極集中』の是正」を共に目指す。

将来にわたって「活力ある地域社会」の実現

人口減少を和らげる	地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する	人口減少に適応した地域をつくる
結婚・出産・子育ての希望をかなえる 魅力を育み、ひとが集う		

「東京圏への一極集中」の是正

■持続可能な社会を目指すSDGs の実現

SDGsは平成27（2015）年9 月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で位置付けられた持続可能な社会を目指す国際目標です。

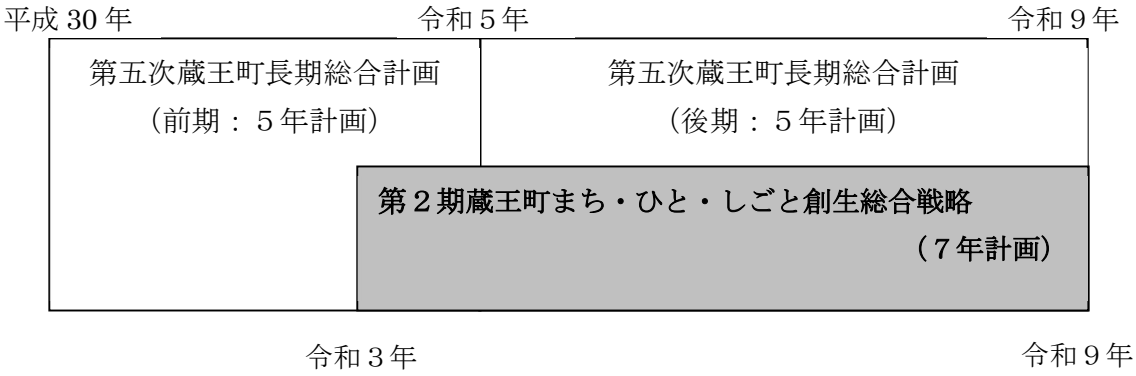
国では、地方創生の取組みをSDGsの理念に沿って進めることにより、取組みの一層の充実と深化につながるものとしています。そのため、本町の第２期総合戦略においても、SDGsの理念との整合性を図り、推進していくものとします。

※SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標として、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

２．第２期総合戦略の位置づけと第五次蔵王町長期総合計画との関係

本町の第２期総合戦略は、蔵王町人口ビジョンで掲げた将来像を目標に、将来像の実現に向けた「まち・ひと・しごと創生」の戦略的な取組みの方向性や具体的な取組みを定めた計画です。本計画は町の施策として一貫性をもって取り組むため、第五次蔵王町長期総合計画との整合性を図りつつ「まち・ひと・しごと創生」を戦略的に推進していくための計画として位置付けるものです。

図１　第五次蔵王町長期総合計画と「第２期蔵王町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の関係図



３．対象期間

対象期間は、令和３年度から令和９年度までの７年間とします。

第2章　基本目標と施策の方向

１．目標設定

第２期総合戦略は、蔵王町人口ビジョンの目指す将来像を具体的に実現するための戦略であることから、将来像は人口ビジョンに基づき次のとおりとします。

「蔵王町人口ビジョン」の目指すべき将来の方向（2060 年の遠方目標）
１．蔵王が持つ自然の恵み、自然の豊かさを活かしたこれからの時代にふさわしい新たな雇用・安定した雇用が生み出される町を実現 ２．蔵王町に暮らすことに誇りと希望が持てる町を実現 ３．若い世代の結婚・出産・子育てに対する切れ目のない支援と、地域で子育てを支える町を実現 ４．町民が安心して住める町・町外の人が期待感を持って来訪できる魅力ある町を実現

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を実現するためには、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI※1）で検証し、改善する仕組み（PDCA※2サイクル）により、取組みを客観的に点検・検証することが必要です。

このことから、本町で策定する「第２期総合戦略」で示す政策の「基本目標」について、「蔵王町人口ビジョン」を踏まえ、「第２期総合戦略」の目標年次である令和９（2027）年度に実現すべき成果に係る数値目標を設定します。

また、基本目標ごとに講ずべき施策の基本的方向と具体的施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標〈重要業績評価指標（KPI)〉を設定することとします。

※1　KPI：Key Performance Indicators　の略。重要業績評価指標。政策ごとの達成すべき成果目標

※2　PDCA：PLAN（計画)、DO（実施)、CHECK（評価)、ACTION（改善）の４つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと

２．基本目標

蔵王町が目指すべき将来の方向（2060 年の遠方目標）の実現に向けて、次の４つを今後７年間の基本目標に掲げ、まちの創生、ひとの創生、しごとの創生を着実に進めていきます。

【基本目標１】　稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働ける地域を創出する

稼げる地域産業の育成、働く場の確保は町内への定住・移住を促進するうえで重要な要因であるとともに、地域の活力向上において不可欠な要素といえます。

本町の基幹産業である農業、観光業を稼げる産業として発展させるとともに、蔵王がもつ自然の恵み、自然の豊かさを最大限生かした新たな雇用の場、起業の機会を創出することで、だれもが安心して働ける環境を創出していきます。

【基本目標２】　蔵王町との繋がりを築き、蔵王町への新しい人の流れをつくる

本町はこれまでも移住・定住を促進してきました。今後は、さらなる移住・定住の流れを生み出していくのはもちろんのこと、町外に住みながらも蔵王町を応援してくれる人々との繋がりを築きあげていく必要があります。

そのため、蔵王町の魅力である豊富な自然資源を守り磨きながら、まちの魅力の情報発信を行うことが重要です。蔵王町に暮らすことに誇りと希望を持てる魅力的な環境づくりに取り組み、人口の社会減を抑え、新たな人の流れの創出を目指します。

【基本目標３】　結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育てに関する事業について、本町では力を入れて取り組んできました。今後も進行する少子化社会においても本町の子育て環境がより充実したものとなるように様々な支援に取り組んでいきます。特に、結婚から出産、子育てまで一貫した支援を行うことで、安心して子どもを育てることができる環境をつくり、未来を担う子どもたちが、ふるさとに誇りを持ち、いきいきと生活できるように取り組んでいきます。

【基本目標４】　ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

住み続けていく上で、日常生活の利便性が高いことは大きな要素となります。時代とともに変化する移動手段や医療などの生活サービスに対するニーズを的確にとらえ、生活の利便性の向上に向けた取組みを推進していきます。

また、自然災害などが増加している社会環境において、安全で安心な暮らしを確保していくため、災害に強い地域づくりや協働による見守りの体制づくり等を推進していきます。

３．施策の基本的方向と主な施策、数値目標

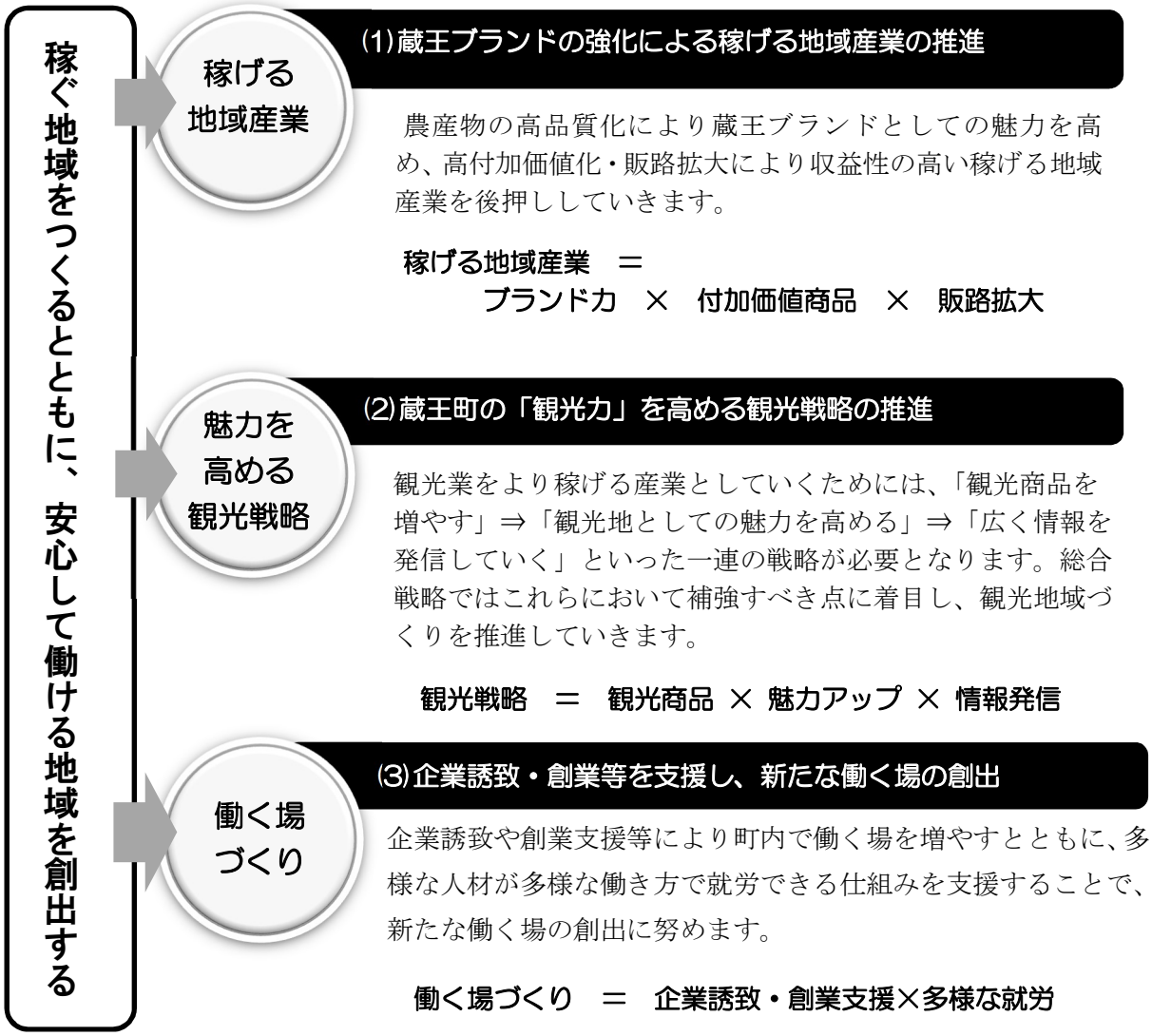
〈基本目標１〉稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働ける地域を創出する

１．数値目標

項目	数値目標
企業誘致・新規就農等による雇用機会の創出数	１００人

２．基本的方向

基本目標１の基本的な方向は、だれもが安心して働ける場を確保していくことです。そのため、蔵王町の特性を活かした地域産業、観光産業について収益性を高め若者等にとっても魅力のある仕事にしていくとともに、企業誘致や多様な働き方の支援などを行い、だれもが働く場を確保し、安心して働ける環境を支援していきます。そのため、主要な取組みとして３つの柱に取り組んでいきます。



３．具体的施策

稼げる地域産業

(1)蔵王ブランドの強化による稼げる地域産業の推進

消費者を魅了する「蔵王ブランド」の強化	○蔵王ブランドの確立による競争力のある農業経営に向けて、高品質な農産物の安定生産、産地化の取組みを支援します。 ○担い手への農地集積を推進しながら、農業生産規模の拡大と作物の集団化による生産性の向上に努めます。
６次化等による収益性の高い事業の推進	○地域の農産物等を活用した加工品の開発等の６次化の取組みを支援します。
販路拡大の支援	○地産地消による町内での経済循環を図るため、学校給食や飲食店、旅館、ホテル等での地元産品の活用を支援します。 ○ふるさと納税制度の積極的活用により、地域産品 PR・販路拡大、来町のきっかけづくりに取り組みます。 ○SNS を活用した情報発信や販促活動等による新たな市場獲得等、販路拡大の取組みを支援します。

魅力を高める観光戦略

(2)蔵王町の「観光力」を高める観光戦略の推進

多様な蔵王の魅力を提供する観光戦略	○蔵王の魅力を活かした宿泊滞在型観光や着地型観光、体験型観光等の個性ある観光の誘客を促進します。 ○DMO の活用や広域連携による訪日誘客事業を推進します。 ○観光に携わる各種団体との連携による観光の振興を図ります。
観光地としての魅力を高めるイメージアップ戦略	○観光地としての魅力を高めるため景観を保全するなど観光客を迎える環境づくりを推進します。 ○商店の魅力づくりや空き店舗の利活用など「温泉街」の魅力向上を図ります。
観光客をひきつける情報発信戦略	○来訪者が蔵王町を身近に感じてもらえるよう、年間を通した細やかな情報発信に取り組みます。 ○SNS を活用した PR を行い、国内外への情報発信に取り組みます。

働く場づくり

(3)企業誘致・創業等を支援し、新たな働く場を創出

蔵王の資源を活かした企業誘致の推進	○観光産業や食品加工業等の蔵王町の地域資源に合った企業の誘致を推進します。 ○税制優遇等の各種支援による企業が進出しやすい環境づくりに取り組みます。 ○蔵王の環境を活かしたワーケーションスポットなど新たな働き方に対応した環境整備を推進します。
多様な働き方を支援し働く場を確保	○蔵王の農業を支える担い手となる農業後継者や新規就農者の育成・確保を推進します。 ○町内での就業機会を増やすため、企業等における短時間労働など多様な働き方の促進を図ります。 ○高齢者の知識、技術を生かすシルバー人材センターの設立に取り組み、生きがいを持って楽しく働ける場の確保に努めます。 ○障がいのある方の働く場の確保や相談、就労支援の充実を図ります。 ○支援相談窓口設置や起業支援助成等による創業者への創業支援に取り組みます。

4．重要業績評価指標

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標(KPI)	現況（R1）	目標（R9）
蔵王ブランド農産物の認定数	２品	４品
農地集約化率	５１．９％	５７．０％
体験交流人口	３，９５９人	５，０００人
観光客入込数	１６４万人	１８０万人
就労移行支援人数	３人	５人

〈基本目標２〉蔵王町とのつながりを築き、蔵王町への新しい人の流れをつくる

１．数値目標

項目	数値目標
年間転入者数	４００人 （R１　３１０人）

２．基本的方向

基本目標２の基本的な方向は、様々な人々が蔵王町に移住・定住し、そして蔵王町と関わる「関係人口」を増やすことです。蔵王町の魅力を活かした移住・定住の選択肢を増やしていくことで、蔵王町で働きたい、子どもを育てたい、豊かな老後を過ごしたいという様々なニーズを掘り起し、蔵王町への移住・定住を推進していきます。さらに、今後も進む人口減少下でも地域の活力を高めていくため、蔵王町に関わりたいという様々な人とのネットワークを築き、経済や人の流れを作っていきます。

蔵王町とのつながりを築き、蔵王町への新しい人の流れをつくる

移住定住の推進

⑴蔵王町の魅力を満喫する移住・定住の推進

蔵王町の自然や仕事、子育て環境等に魅力を感じ、移住・定住される方々に対して、求める魅力を満喫できる「住まいのかたち」を提供していきます。特に、他施策と連携しながらニーズに合った住まいを提供することで移住促進に取り組んでいきます。

また、様々な角度からの情報発信を強化し総合的な支援を実施していくことで、移住者予備軍の掘り起こしを行い、移住者の拡大につなげていきます。

移住・定住の推進　＝　住まい　×　情報発信

流れをつくる

⑵蔵王町への資金・人の流れをつくる

全国的な人口減少社会においては、移住だけではなく様々なかたちで蔵王町と各地域とのつながりを構築し、地域の活力を高めていくことが求められます。そのため、蔵王町と各地域との間で経済の流れをつくるとともに、蔵王町に魅力を感じる「ファン」を拡大し、地域内外から蔵王町の地域づくりに関わってもらう人々のネットワークを拡大していきます。

流れをつくる　＝　経済の流れ　＋　人の流れ

３．具体的施策

移住定住の推進

(1)蔵王町の魅力を満喫する移住・定住の推進

多様な世帯にあった移住・定住の支援	○移住・定住のための住宅の購入費用の一部助成や、奨学金返還支援等による移住・定住者の経済的支援を継続します。 ○空き地活用や民間の力を活用した住宅地の整備等による移住・定住しやすい環境づくりの検討に取り組みます。
情報発信・相談体制の強化	○空き家のほか、空き地等も含めた空き家・空き地バンクによる蔵王町の物件情報の発信に取り組みます。 ○蔵王町への移住・定住を希望する人が、必要とする情報を得られるようオンライン相談など様々な手段により多様な情報発信に取り組みます。 ○移住を希望する人が蔵王町の暮らしをイメージできるよう、体験型の移住促進事業に取り組みます。

流れをつくる

(2)蔵王町への資金と人の流れをつくる

蔵王町への経済の流れをつくる	○ふるさと納税制度、企業版ふるさと納税制度の活用により、蔵王町への経済の流れをつくります。
蔵王町に関わる人の流れをつくる	○地域おこし協力隊の導入により、蔵王町への人の流れをつくります。 ○地域間の連携協定や交流を深めている自治体等との蔵王町の体験プログラムの活用により住民の交流を図ります。 ○町外に住みながらも蔵王町に深く関わる「蔵王町ファン」の獲得のため、蔵王町ファンクラブ等創設による町との関係構築を推進します。

４．重要業績評価指標

【重要業績評価指標（ＫＰＩ）】

重要業績評価指標(KPI)	現況（R1）	目標（R9）
ふるさと納税寄附金額	2億7，１７６万4千円	８億円
移住希望者への相談対応件数	累計　２２７件	累計　６００件
空き家情報の提供件数	累計　　４３件	累計　３００件
移住者への住宅取得・リフォーム費用の助成件数	累計　　１９件	累計　１００件

〈基本目標３〉結婚・出産・子育ての希望をかなえる

１．数値目標

項目	数値目標
合計特殊出生率	１．５０ （R1　1．34）

２．基本的方向

基本目標３の基本的な方向は、これまで以上に蔵王町において安心して子どもを育てられるように、結婚・出産・子育てについて一貫した切れ目ない支援を行っていくことです。子育て家庭への支援のほか、仕事と子育ての両立を支援していくことで子育ての希望を叶える地域を構築していくとともに、未来を担う子どもたちが、ふるさとに誇りを持ち、いきいきと生活できる環境の整備に取り組んでいきます。

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

切れ目ない支援

(1) 結婚・出産・子育ての切れ目ない支援

蔵王町で結婚、出産、子育てをしていくために必要な支援を切れ目なく実施していき、安心して子育ての希望をかなえられる蔵王町を実現していきます。特に、子育ての経済的な支援を充実し、様々な家庭環境においても安心して子どもたちを養育していけるように支援の拡充を図っていきます。

切れ目ない支援　＝　結婚・出産　＋　子育て

仕事と子育ての両立

(2)仕事と子育ての両立を支援

様々な家庭において、安心して子どもを育て働ける環境を作っていくため、「仕事と子育ての両立」を応援する取組みを検討します。また、子育て世代が孤立しないように保護者間の交流等を深め、親世代にも優しい支援に取り組みます。

仕事と子育て　＝　預かり体制　＋　子育て親の支援

人づくり

(3) 未来を担うひとづくりの推進

時代の環境変化に対応しながら児童・生徒に様々な学習や活動の機会を提供し、子どもたちの未来を応援していく取組みを推進していきます。さらに、蔵王の歴史や自然について学ぶ機会を提供し地域文化等の郷土愛を育む取組みを行っていきます。

人づくり　＝　学習環境　＋　郷土愛

３．具体的施策

切れ目ない支援

（1）結婚・出産・子育ての切れ目ない支援

結婚・出産・子育ての切れ目ない支援	○結婚に向けた相談や情報の提供、イベント開催、出会いの機会づくりなどを推進します。 ○子どもを望む夫婦の希望に応えるため、特定不妊治療にかかる費用助成を行い支援します。 ○妊娠から出産・子育てまでの相談・情報提供の充実等により、子育て世帯が孤立することなく安心して出産・子育てできる環境づくりに努めます。
子育て家庭の経済的支援の充実	○子どもの出生を祝福し健全な育成を促すため、すこやか養育助成金や育児用品購入助成等の経済支援を継続します。 ○子どもが必要とする医療が受けられるよう子ども医療費助成制度や任意予防接種への助成等の医療費支援を継続します。 ○子育て費用が大きな負担となるひとり親世帯等に対して、あったか支援金支給による経済的支援を継続します。

仕事と子育ての両立

(2) 仕事と子育ての両立を支援

預かり体制の充実	○よい良い幼児保育・教育環境を構築しながら保育待機児童の解消を図るなど、子育て世帯のニーズにあった保育サービスに努めます。 ○放課後児童クラブの受け入れ時間延長や児童の受け入れ体制の整備・充実等に努めます。
子育て家庭の支援方策の充実	○共働き世帯の行政手続き等の負担低減方策の検討に取り組みます。 ○育児休業の取得や時短勤務などを促し、子育てと仕事が調和した職場環境整備の促進を図ります。

人づくり

(3) 未来を担うひとづくりの推進

子どもの学びの環境を支援	○子どもたちの学習意欲を応援するため、様々な学習・スポーツ活動の機会づくりに取り組みます。 ○教育環境向上のため、統合中学校の建設、認定こども園の設置検討等、新たな時代に対応する教育環境づくりを推進します。
地域文化や自然を誇りとする生徒・児童の育成	○地域の歴史・文化や自然を誇りに思う、郷土愛のある児童・生徒の育成に取り組みます。

４．重要業績評価指標

【重要業績評価指標（ＫＰＩ）】

重要業績評価指標(KPI)	現況（R1）	目標（R9）
婚活イベントの参加人数	３３人	４０人
町内出生者数	６１人	１００人
保育所待機児童数	２４人	０人
放課後児童クラブ利用者数	１３２人	１４５人
子育て支援センター利用者数	(R2見込) １，８００人	２，６００人

〈基本目標４〉ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

１．数値目標

項目	数値目標
住みやすい町だと思う町民の割合	７５．０％ （R２　66.7%）

２．基本的方向

基本目標４の基本的な方向は、人口減少が進む蔵王町においても町民や移住者が安心して暮らせる地域社会を構築することにあります。人々が定住し持続的な地域社会を形成するためには、蔵王町に住み続けたいという「快適な住環境」と蔵王町に住み続けられるという「安全・安心の確保」の２つの柱が必要不可欠となります。ここでは、この２つの柱を戦略的に進めるための取組みを行っていきます。

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

快適な住環境

⑴ずっと住み続けたい快適な住環境づくり

今後人口が減少し、これまでの社会サービスが困難になる地域社会において、それでも蔵王町に住み続けてもらうためには、蔵王町に住み続けたいという強い想いを醸成していくことが必要不可欠です。そのため、蔵王の魅力を強化し蔵王町に住むことでの満足度を高めるとともに、住民が求める生活サービスの充実に努めます。

快適な住環境　＝　地域づくり　＋　生活サービスの充実

安全安心の確保

⑵安全で安心して暮らせる地域社会づくり

安全で安心して暮らせる地域社会の構築は最も重要な取組みといえます。人口が減少し地域自治等の維持が困難になる可能性が高まることから、これまで以上に自然災害等の危険から暮らしを守る取組みや地域住民が安心して定住できる地域社会の環境を整える取組みを行っていきます。

安全安心の暮らし　＝　防災体制　＋　協働体制

３．具体的施策

快適な住環境

（1）ずっと住み続けたい快適な住環境づくり

ずっと住み続けたい快適な住環境づくり

○地域が抱える問題の解決や賑わいづくりなど、住民が主体となって取り組む活動を支援し、協働のまちづくりを推進します。

○再生可能エネルギー・省エネルギーの普及促進により自然環境への負荷の低減を図ります。

○子どもからお年寄りまで世代を超えて交流し、ぬくもりある地域コミュニティ形成を推進します。

○高齢者が安心した生活を続けられるよう、介護、健康、医療など様々な面から支援を行う地域包括ケアシステムの構築を図ります。

蔵王町の地域を支える生活サービスの充実

○蔵王町の地域特性に応じた公共交通計画を策定し、通院、通学、買物など生活ニーズに対応する交通手段の確保に取り組みます。

○蔵王病院の定期的な訪問診療や患者の送迎バスを運行するほか、平日夜間や休日でも診察を受けられるよう体制を確保するとともに、地域医療の充実が図られるよう各種方策の検討に取り組みます。

○子どもたちがのびのびと遊べる場、住民の憩いの場となる公園の維持管理等に努めます。

安全安心の暮らし

(2)安全で安心して暮らせる地域社会づくり

増加する自然災害に対する防災体制づくり

○自主防災組織の設立支援及び防災リーダーの養成を促進します。

○災害関連情報を地域住民や観光客に迅速かつ確実に伝達できる体制の強化を図ります。

○避難行動要支援者等をはじめとした住民が安全に避難でき、安否確認が容易にとれる体制の維持を図ります。

町民との協働による地域を守る仕組みづくり

○消防団員、交通指導隊等地域を支える人・団体の充実・強化を図ります。

４．重要業績評価指標

【重要業績評価指標（ＫＰＩ）】

重要業績評価指標(KPI)	現況（R1）	目標（R9）
家庭用太陽光発電システム設置件数	累計　１９２件	累計　３１０件
自主防災組織の組織率	７０％	１００％
防災リーダー養成者数	累計　８８人	累計　１００人
消防団員充足率	９４％	１００％
交通指導隊員充足率	９０％	１００％
防犯実働隊員充足率	８６％	１００％
高齢者見守り協定締結事業所数	７件	８件

第3章　事業の推進体制

蔵王町では、まち・ひと・しごと創生のための施策の全庁的推進を図るため、「蔵王町まち・ひと・しごと創生推進本部」を設置しています。この体制のもと、総合的な施策の推進を図ります。

総合戦略の各施策は、蔵王町第五次長期総合計画「前期基本計画」から「後期基本計画」にかけて整合を図り、社会情勢の変化や町の財政状況等を踏まえながら、毎年度事業の見直しを行っていきます。

また、総合戦略の効果検証については、「蔵王町まち・ひと・しごと創生推進本部」のほか、「蔵王町企画審議会」において評価を行い、必要に応じて総合戦略を改訂することにより、ＰＤＣＡサイクルを確立していくこととします。